

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|---------------------------|------------------|---|-------|----|----|--------|----|------|------|-----------|---|----|----|---------|---|----|----|-------------|---|----|----|------------------|---|----|----|
| 広島工業大学専門学校 | | 昭和59年1月14日 | 玉野和保 | 〒733-8533 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話) 082-295-5111 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人鶴学園 | | 昭和32年11月27日 | 鶴衛 | 〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話) 082-921-3121 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | ITスペシャリスト学科 | | 平成22年文部科学省 告示第31号 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | IT知識・技術の基礎・基本を学び、システム開発やプログラミング能力を身に付ける。将来システムエンジニアとして、プロジェクトに参画できる人材を育成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 昼間 | 2,944 | 1,888 | 0 | 1,408 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 120人 | 30人 | 0人 | 5人 | 5人 | 10人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~翌年3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・課題・小テストや、授業態度、また出席状況等を総合的に判定し、科目担当教員が評価。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月4日 ■夏季:7月22日~8月31日 ■冬季:12月23日~翌年1月7日 ■学年末:3月18日~4月3日 | | 卒業・進級条件 | 卒業条件は、学科の定める卒業認定単位数を満たしていること。進級条件は、出席率80%以上、必須科目の単位の取得を原則とし、学科判定会議、学校全体の認定会議で審議。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 出席率不良(80%未満)学生について、個別の状況把握に努め早期対応を行う。長期欠席者に対しては学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて生活指導・進路指導を行う。 | | 課外活動 | ■課外活動の種類 学友会、体育祭実行委員会、専門祭実行委員会、地域ボランティア清掃、広島市グリーンパートナー、みちのく未来基金募金活動等。 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) マンパワーグループ(株)、(株)テックササキ、日本自動化開発(株)、(株)ケイ・シー・シー、理研産業(株)、(株)トーク、(株)リマック ■就職指導内容 学生向け就職ガイダンス 生き方講座SPI・面接指導 過去入社試験報告書情報提供等 ■卒業者数 9 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 7 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 77.7 % ■その他 ・広島工業大学進学 2名 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報処理技術者試験</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>EXCEL表計算技能認定試験2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 | 情報処理技術者試験 | ③ | 9人 | 4人 | ITパスポート | ③ | 9人 | 2人 | コミュニケーション検定 | ③ | 9人 | 9人 | EXCEL表計算技能認定試験2級 | ③ | 9人 | 4人 |
| 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報処理技術者試験 | ③ | 9人 | 4人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ITパスポート | ③ | 9人 | 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| コミュニケーション検定 | ③ | 9人 | 9人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| EXCEL表計算技能認定試験2級 | ③ | 9人 | 4人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 4 名 平成28年4月1日時点において、在学者28名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者24名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(経済的理由) | | ■中退率 14.3 % | ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 広島工業大学専門学校同窓会奨学金(給付型・年額6万円) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.hitp.ac.jp/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩の勢いで進化するIT業界において、即戦力となる人材を育成するため、企業等と連携し、システムエンジニアやプログラマに求められる知識・技術をカリキュラムおよび授業内容に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業・業界団体等と連携し、各課程及び学科における技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図ることを目的に、広島工業大学専門学校学則第50条により産学連携協議会を設置し、その中に、教育課程編成委員会を置く。当該委員会では、以下の事項を審議し、審議結果は教育部長及び各学科長が中心になって教育課程を見直す。

- ①教育課程の編成及び実施
- ②教育計画に関する事項
- ③教材の開発等

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-------------------|--------------------------|----|
| 高羽 威 | 一般社団法人広島県情報産業協会 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年) | ① |
| 中元 正彦 | 株式会社 ECS | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年) | ③ |
| 渡部 孝 | エム・ディー・エス 株式会社 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年) | ③ |
| 田淵 信夫 | 株式会社 リマック | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年) | ③ |
| 谷 真弘 | 株式会社 フォックス・リレーション | 平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年) | ③ |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回

(開催日時)

第1回 平成28年6月 7日 15:00～17:00

第2回 平成29年2月21日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「クラウド」、「IoT」、「AI」とった新しい技術が広まりつつあり、これらのあたらしい技術に対応できる人材が育成できる新カリキュラムを検討平成30年度より、新カリキュラムに移行

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ITに関する実践的な技術が必要とされる中で、システム開発等に関わる技術やスキルを学生に身に付けさせるため、専門性に特化したシステム開発企業と連携し、当該企業の技術者を講師とする実践的な授業を展開することとする。また、同時に実習における学習成果等に対して評価を行う体制を学校と連携して取ることが可能な企業であることとしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

システム開発に関する企画・開発力を強化するため、ビジネスモデルの企画、「Ruby」「Salesforce」の開発基盤を活用したシステム開発を実施。企業からの提案課題につき、グループ作成を行い、成果物を完成させ発表を行い、連携企業からの評価を受ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|---------------|--|------------------|
| ネットワーク応用 | ネットワーク基礎で学んだ知識を生かし、インターネットの活用方法を学ぶ。 | 株式会社リマック |
| システム開発実践 | クラウド型システム開発ツールである「Salesforce」を用いて、システムの企画から開発までの演習を行う | 株式会社ECS |
| Rubyプログラミング応用 | Rubyを活用したフレームワーク「Ruby on Rails」を活用し、Webアプリケーションの開発方法について学ぶ | 株式会社フォックス・リレーション |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員が、当学科における急速に変化する経済社会のイノベーションに対応できるよう、専門的な知識や技術・技能を高め、また、学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で以下の研修等を計画・実施し、それに参加することで教育活動の充実に努めることを基本方針とする。

- ①企業が開催する研修会
- ②協会主催学術講演会・講習会・研修会
- ③業界団体主催の研修会

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

| 対象 | 研修名称 | 主催 | 研修期間 | | 研修内容 |
|----|--------------------|------------------|------------|---------------------|---|
| 教員 | バージョン管理システム「Git」研修 | 株式会社フォックス・リレーション | 平成28年9月29日 | 9:00 から 15:00 まで | 「チャットワーク」「Bitbucket」という2つのソフトウェアを活用し、複数の教員がグループとして共同開発することを想定し、開発上での「Git」の利用方法を学んだ。 【講師】 株式会社フォックス・リレーション 竹内信人 【対象科目】 Rubyプログラミング応用 |

②指導力の修得・向上のための研修等

| 対象 | 研修名称 | 主催 | 研修期間 | | 研修内容 |
|-----------|-----------------------------------|------------|------------|----------------------|---|
| 教員 | 先進校（東北電子専門学校）視察 | 広島工業大学専門学校 | 平成28年6月23日 | 10:00 から 17:00 まで | ICT教育、インターンシップ、プロジェクト学習、資格指導体制、就職指導体制、留学生支援などについて、先進校の取組について視察した。 【講師】 東北電子専門学校 校長 佐藤公一 |
| 学科長 部長 | これからの専門職業人教育 インストラクショナル・デザイン講座 | 広島工業大学専門学校 | 平成28年8月8日 | 15:00 から 17:00 まで | グランドデザインを基に、大学のカリキュラムツリーを参考にし、本校独自のカリキュラムツリーの作成について講習を受けた。 【講師】 校長 玉野和保 |
| 教員 | グランドデザインに基づくカリキュラムツリーの作成 | 広島工業大学専門学校 | 平成28年8月25日 | 9:00 から 11:45 まで | 職業実践専門課程の認定を受け3年目を迎え、さらなる教育の質向上が求められる中、本校としてはグランドデザインを基に、DP（ディプロマポリシー）、CP（カリキュラムポリシー）、AP（アドミッションポリシー）を構築するため、学科ごとに本校独自のカリキュラムツリーの作成に取り組んだ。 【講師】 校長 玉野和保 |
| 教員 | 普通救急救命講習 | 広島工業大学専門学校 | 平成28年8月25日 | 13:00 から 16:30 まで | 救命救急講習会 救命手順およびAED使用に関する講話と実技講習 【講師】 広島市消防局 |
| 教員 | 情報セキュリティ研修 | 広島工業大学専門学校 | 平成29年3月23日 | 15:00 から 16:30 まで | 教職員の情報セキュリティ研修 ・学校が守るべき情報、情報漏えいによる損害と責任、セキュリティ対策等 【講師】 株式会社ネットスクエア 代表取締役 村上賢二 |

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・ICT教育の充実をはかるため、デジタル教材開発にかかわる研修を行う
- ・「IoT」、「AI」といった最近の技術に対応したプログラム作成に適した「Python」についての研修を行う

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・学内における中堅技術者育成の研修

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学校関係者・卒業生等の委員で構成される学校関係者評価委員会を構成し、自己評価報告書を基に教育目標に沿った人材育成や学校運営等の教育活動を評価することで、各課程及び学科における教育への取り組みの改善等を促進し、教育の質の保証・向上並びに教員の資質・指導力向上等を図る。

当該委員会では以下の事項について評価・助言を求める。

- ①自己評価の内容
- ②自己評価の結果に基づく今後の改善方向
- ③学校運営に向けた取り組み
- ④重点的教育の取り組み内容

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|---------------|
| (1)教育理念・目標 | 教育理念・目標・育成人材像 |
| (2)学校運営 | 学校運営 |
| (3)教育活動 | 教育活動 |
| (4)学修成果 | 学修成果 |
| (5)学生支援 | 学生支援 |
| (6)教育環境 | 教育環境 |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生の受入れ募集 |
| (8)財務 | 財務 |
| (9)法令等の遵守 | 法令等の遵守 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 社会貢献・地域貢献 |
| (11)国際交流 | 国際交流 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価結果ならびに改善事項は、教職員全員で共有するとともに、各課程及び学科における具体的対応の検討結果を教育課程編成委員会に反映させることで、次年度の教育課程のその他学校運営の改善に活用し、技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|---------|------------------|--------------------------|----------|
| 国 貞 和 彦 | 学校法人広陵学園 広陵高等学校 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年） | 高校 |
| 高 羽 威 | 一般社団法人 広島県情報産業協会 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年） | 業界団体 |
| 木 谷 幸 江 | 公益財団法人 日本照明家協会 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年） | 業界団体 |
| 山 本 博 | テンパール工業株式会社 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年） | 企業 |
| 宮 内 秀 実 | 河井建設工業株式会社 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年） | 企業 地域 |
| 大 畠 晋 也 | 広島工業大学専門学校同窓会 | 平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年） | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 毎年7月末

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動及び学校運営の状況とそれらの自己評価報告書を、学校関係者評価委員会ならびに教育課程編成委員会の企業・関係業界・学術機関の委員に配布・公開し意見を求めることで、理解と助言を求め、もって教育の質保証・向上を図ることを基本方針としている。併せて、関係事項をホームページだけでなく、学生募集関係文書、採用案内関係文書等で広く公開し、積極的な情報提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|----------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 学校の概要、目標及び計画 |
| (2)各学科等の教育 | 各学科等の教育 |
| (3)教職員 | 教職員 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | キャリア教育・実践的職業教育 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 様々な教育活動・教育環境 |
| (6)学生の生活支援 | 学生の生活支援 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学生納付金・修学支援 |
| (8)学校の財務 | 学校の財務 |
| (9)学校評価 | 学校評価 |
| (10)国際連携の状況 | 国際連携の状況 |
| (11)その他 | その他 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

授業科目等の概要

| (工業専門課程ITスペシャリスト学科) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|------|------|------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 生き方講座Ⅰ | 仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。 | 1前 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生き方講座Ⅱ | 仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。 | 1後 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 英語Ⅰ | 短い読解文を読み文法的な基礎力、語彙力を身につける。また、シャドーイングによりプロソディを改善し、リスニングスキルを向上させるとともに会話表現を学ぶ。 | 1前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | コンピュータシステム | ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータシステムに関する知識を学ぶ | 1前 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | アルゴリズム演習 | 基本的な命令の組み立て方を理解し、データ検索や並べ替えなどの代表的なアルゴリズムを学習する | 1前 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | データベース基礎 | 関係データベースを中心に、E-Rモデル、正規化、関係演算、トランザクション処理、障害回復方法について学ぶ。 | 1前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | システム設計基礎 | システム開発技法に関する基本計画、外部設計、内部設計、プログラム設計、運用・保守の作業手順をドキュメント化し、簡単なシステムを作成しながら理解する。 | 1前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | ネットワーク基礎 | OSI参照モデルを基に、ネットワークを構成する機器の働き、各種プロトコルを学ぶとともに、セキュリティ対策についても学ぶ。 | 1前 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 情報化と経営 | ストラテジ分野である、情報システム戦略、経営戦略、企業と法務を学ぶ | 1前 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | Webデザイン基礎Ⅰ | Webページを作成するための、Webデザイン、HTML、CSSの基礎知識を学び、Webサイト制作の実践を行う | 1前 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | ドキュメント技法 | ビジネス文章の作成について、基本ワープロソフトを活用し、作成方法を学ぶ。 | 1前 | 32 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------|---|--------|----|---|---|--|---|---|--|--|---|---|
| ○ | | 表計算応用 | さまざまなビジネスシーンで活用できる実践的な表計算ソフトの使い方を学ぶ。 | 1 前 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 文章技術 | 明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。 | 1 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | Webデザイン基礎Ⅱ | Webページを作成するための、Webデザイン、HTML、CSSの基礎知識を学び、Webサイト制作の実践を行う | 1 後 | 64 | 3 | △ | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | アプリケーションプログラミング | プレゼンテーションとゲームのシナリオ作成、スクリプト言語の学習を行い、1つのゲーム作品を完成させる。 | 1 後 | 64 | 3 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | ネットワーク応用 | インターネットの活用ができるように、仕組みや接続方法、Webブラウザ、メールクライアントの設定、セキュリティ、サービスの利用と法律を学ぶ。 | 1 後 | 64 | 3 | △ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | データベース応用 | 幾つかのRDBMSを使い、SELECT文などのSQLの使い方や、トランザクション処理について学ぶ。 | 1 後 | 64 | 3 | △ | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | システム設計応用 | システム開発についての知識の取得と、各システム開発の工程で実施すべき事柄を習得する。 | 1 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | .netプログラミング | Visual Basicを用いたプログラミング実習を通じて、論理的思考能力の育成と基本的なアルゴリズムの習得をする。 | 1 後 | 96 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | プレゼンテーションB | PowerPointを用いた効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学び、かつ作成した資料を用い説得力のあるプレゼンテーションの実技を行う。 | 1 後 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | コミュニケーションB | 日常生活およびビジネスシーンで必要とされるコミュニケーションに関する基本的な知識を学ぶ。 | 1 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 情報処理演習Ⅰ | 情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。 | 1 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | インターンシップ | IT企業と連携し、SE業務知識やクラウド技術など、ITエンジニアとして必要とされる知識・技術をIT企業の指導者のもとに作業しながら学ぶ。 | 1 後 | 64 | 2 | | | ○ | | | | ○ | ○ |
| | ○ | 特別講義Ⅰ | 既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。 | 1 前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | 特別講義Ⅱ | 既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。 | 1 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------|---|----|----|---|---|--|---|---|---|---|--|---|
| ○ | | 生き方講座Ⅲ | 仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。 | 2前 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 生き方講座Ⅳ | 仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。 | 2後 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | ソフトウェア開発知識Ⅰ | 基本情報処理技術者に求められる、基本知識を身に付け、基本情報処理試験の受験を目指す。 | 2前 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | ソフトウェア開発知識Ⅱ | 応用情報処理技術者に求められる、応用的知識を身に付け、応用情報処理試験の受験を目指す。 | 2後 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | セキュリティ | セキュリティの基礎知識、ウィルス対策、認証に関する知識、サーバのセキュリティについて学ぶ | 2前 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | データベースアプリケーションⅠ | データベース管理システム AccessのVBAを使ったプログラミングを通して、SQLを使ったデータベースアプリケーションの作成方法を学ぶ。モデルシステムの開発も演習する。 | 2前 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | ○ | データベースアプリケーションⅡ | 表計算ソフトExcelのデータベースを活用した仕事に役立つデータベースアプリケーションの作成方法について学ぶ。 | 2後 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | オブジェクト指向設計 | オブジェクト指向開発でのプログラム設計ができるよう、UMLを理解し、簡単なシステムを記述できるようにする | 2前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | Webデザイン応用Ⅰ | Webデザインにおける基礎理論を実践し、より高度な専門的技術を得る。Webデザインの企画から運用までの専門的知識を学び、Webサイト制作の実践を行う。 | 2前 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | Webデザイン応用Ⅱ | Webデザインにおける基礎理論を実践し、より高度な専門的技術を得る。Webデザインの企画から運用までの専門的知識を学び、Webサイト制作の実践を行う。 | 2後 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | オブジェクトプログラミングⅠ | Javaの命令と文法およびオブジェクト指向を理解し、簡単なプログラムを作成できる力を養う。 | 2前 | 96 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | オブジェクトプログラミングⅡ | オブジェクト指向プログラミングを理解し、Javaを用いてGUIを利用した簡単なソフトウェアを作成できる技術を身につける。 | 2後 | 96 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ○ | | Linux基礎 | Linuxの仕組みや操作コマンドおよびシェルスクリプトの基礎を学ぶ。 | 2前 | 32 | 1 | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | ○ | Linux応用 | Linuxコマンドとシェルスクリプトプログラミングを学ぶ。Linux実機を使い、運用や管理の方法も学ぶ。 | 2後 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------------|--|--------|-----|---|---|--|---|---|---|---|---|--|
| ○ | | サーバー構築 | 小規模ネットワークでのサーバ運用・管理が行えるように、LinuxサーバとWindows2008サーバ双方の、導入・設定・運用・管理を、実機による演習で学ぶ。 | 2 後 | 64 | 3 | △ | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | システムデザインⅠ | 人間の行動を理解し、ユーザが操作しやすく、かつミスの起こりにくいインタフェース設計技術を身につける。 | 2 前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | システムデザインⅡ | JavaのGUI機能を利用した対話型インタフェース作成技術、プログラミング手法を学ぶ。 | 2 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 情報処理演習Ⅱ | 情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。 | 2 前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 情報処理演習Ⅲ | 情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。 | 2 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | 特別講義Ⅲ | 既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。 | 2 前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | 特別講義Ⅳ | 既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。 | 2 後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 生き方講座Ⅴ | 仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。 | 3 前 | 32 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | 生き方講座Ⅵ | 仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。 | 3 後 | 32 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | Rubyプログラミング基礎 | オブジェクト指向言語であるRubyを用いたデータベース活用アプリやWEBアプリの作成について学ぶ | 3 前 | 128 | 6 | △ | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | Rubyプログラミング応用 | Ruby ON Railsを用いたWebアプリケーションの開発について学ぶ。 | 3 後 | 128 | 6 | △ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | モバイルプログラミングⅠ | App Inventorを利用したAndroidタブレットで動作するアプリケーションの作成方法を学ぶ。 | 3 前 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | モバイルプログラミングⅡ | Java言語使い、Androidタブレットを活用したマインドストームNEXTの制御プログラムを学習する。 | 3 後 | 64 | 3 | △ | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | 組み込みシステム | ArduinoやKINECTといった機材を活用し、各種機器の制御の仕組みやプログラミングを学習する。 | 3 前 | 96 | 4 | △ | | | ○ | ○ | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|------------|--|------|-----|---|---|------------------|---|---|---|--|--|--|--|--|---|
| | ○ | データベース構築 | データベース管理システムのインストールから、多くのユーザを前提とした運用・管理までの操作方法を、実習を通して学ぶ。 | 3前 | 64 | 3 | △ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | ネットワーク構築Ⅰ | 小規模ネットワークを管理できる技術の習得。OSI参照モデル、TCP/IPプロトコル、LANの基本、レイヤ2スイッチ、RPI、ネットワークセキュリティを学ぶ。 | 3前 | 64 | 3 | ○ | | △ | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | ネットワーク構築Ⅱ | 小規模ネットワークを管理できる技術の習得。WAN、PPP、無線LANを学ぶとともに、ネットワーク構築実習を行う | 3後 | 64 | 3 | △ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | ○ | 仮想化技術 | サーバの仮想化やストレージの仮想化など昨今の仮想化の仕組みと機能を学習する | 3前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | システムマネジメント | システム開発におけるプロジェクトマネジメントについての知識の取得と、プロジェクトマネジメントで実施すべき事柄を習得する。 | 3後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | システム開発実践 | グループを組んで、オリジナルなシステムの設計・開発を行う | 3後 | 128 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ |
| | ○ | 情報処理演習Ⅴ | 情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。 | 3前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | ○ | 情報処理演習Ⅵ | 情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。 | 3後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ 特別講義Ⅴ | 既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。 | 3前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ 特別講義Ⅵ | 既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。 | 3後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | |
| 合計 | | | | 63科目 | | | | 3,328単位時間(164単位) | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|------------|--|----------|-----|
| | | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1学期の授業期間 | 16週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。